

施策パッケージ名	若手研究人材のキャリアパスの整備
担当府省	文部科学省
施策パッケージの目標	第4期科学技術基本計画で掲げられた「優れた研究者を養成するための研究者のキャリアパスの整備」、「キャリアパスの多様化」に向けて、①優秀な研究者を育成するための自立的な環境の整備、②出産・子育て・介護と研究の両立支援、③研究に専念できる環境を整備する研究マネジメント人材（リサーチ・アドミニストレーター）の育成・定着、④企業等への多様なキャリア開発への支援の4つの施策を総合的に推進することにより、主に国内における若手研究人材の多様なキャリアパスを整備する。
予算要求額等の合計	平成24年度 239億円（平成23年度 211億円）
実施期間	平成23年度～平成27年度
【全体講評】 ○若手研究人材のキャリアパスの問題は、現状において我が国の研究開発が抱える最大のボトルネックの一つとして、喫緊の対応が必要であるとともに、我が国の研究開発の持続的な発展という観点から、長期にわたる恒常的な取り組みが求められる課題であり、その重要性に鑑み、重点施策パッケージとして資源配分の重点化を行うべき対象と認められる。 ○リサーチ・アドミニストレーター育成事業については、高度な専門性を有する人材にふさわしい職位の確立が図られることが必要である。 【目的・目標について】 ○施策パッケージが掲げる目標は妥当であるが、パッケージを構成する各施策が、実施機関において内部の制度や教員意識の改革にも結びつくことで、その効果的な実現が図られるものであり、こうした視点の下に施策を推進することが重要である。 【アプローチについて】 ○4つの施策それぞれについて実際の問題状況の改善に寄与するものであると認められるが、若手研究人材をめぐる問題状況の改善を図るには、博士課程教育が抱える諸問題の改善（教育内容の改善や経済的支援の拡充、適正定員の再検証等）も不可欠であり、このための高等教育行政との連携強化が望まれる。	

【実施体制について】

○適切な実施体制であると認められる。ただし、施策パッケージの目標達成に向けて、高等教育行政との連携を強化することが必要である。

【その他】

○特別研究員事業については、日本の科学技術の将来を担う優秀な研究者を養成する重要な施策であり、今後も推進すべきである。

○リサーチ・アドミニストレーター育成及びポストドクター・キャリア開発事業については、施策の実施過程においてそれぞれの効果や効率性を検証し取組みの改善を図るべきである。

○リサーチ・アドミニストレーター育成事業については、企業の知恵やビジネス手法に学ぶことも重要である。

○女性研究者支援事業は、各機関の独自性を活かしつつ、これまでの成果を踏まえたモデル的な取組みの横展開を図ることが重要である。

○本施策パッケージは、アクションプラン対象施策であるテニュアトラック普及・定着事業と一体的に推進されるべきことは当然である。